



# 歌壇

藤田 武 推薦

かどーかどと声のながれて山形に練賣り来ると母言いし春

(千葉市)深山みどり

【評】かどは練のごとで、行商の魚屋のうり声が春になると訪れてくることを、母が語っていたことを、作者は深い思いで思いだしている。まさしく練は春告魚、作者にとっても忘れがたい記憶なのである。東日本大震災のあとに読むとき、おだやかな北国の風景が深く印象に残る。すこし欠けた古き硯に瀬戸内の春を満たせり 亡母への手紙

(千葉市)加藤 澄子

【評】作者は書になじんでいるのであろう。それゆえ、亡き母への手紙も毛筆が思いうかぶのであろう。ふるさと瀬戸内、諸々の春のイメージが湧いてくる。それらを亡き母に語りかける。母への熱い思いが伝わった。いさぎよくわがあることこの叶わねば仰ぎみており塔の垂直

(東京都)小原 和夫

【評】作者は、物事を深く考え対処されるのであろう。いさぎよい姿勢ばかりではない。それだけに垂直に高く立っている塔の自立性にあらためて心を打たれるのだ。結句が一首を緊めている。深い人生の味が滲む作品である。胡桃割り炒り摺り山独活に和えてこのうえなくあかるい別れ膳

(船橋市)寿 十里

永遠に終わらない宿題ひとつ夏休みはとうに過ぎたのに

(柏市)澁谷 善武

雛祭りと言ひつつ出さる菜の花の酢味噌つくづく緑なりけり  
ほそながき弓なりの鳥つと弾けはるいちばんを吹かすも愉快

(東金市)内山 咲一

三月に入れば疼くよきずひとつ名残りの雪となればなほさら

(八千代市)梁井りつ子

レモンイエローこのさびしい色を放ちやるたらいの水の鋼のにおい  
丹いろ濃き彩絵のごとく空を染め今し落ちゆく春の夕つ日

(千葉市)吉田千枝子  
(大網白里町)木村 香文

## 津波の脅威 カメラ目

### 旭の飯岡漁港、地元

旭市の飯岡漁港や九十九里浜に津波が押し寄せた。写真①。カキ寄せる様子を高台から目撃した、同市の無職佐久間作衛さん(75)が刻々と写真に収めていた。

佐久間さんによると、津波が何度か来て、港内で船がぶつかりあった。一部の船は岸壁や防波堤に乗り上げた。いったん津

## 木更津に「わたくし美術館」

「地元作家や学生発表の場」



事務所を改造した展示スペースに、中村儀介さんのコレクションなどが展示されている＝木更津市貝淵4丁目

木更津市の美術愛好家が、自分のコレクションを展示したり、地域の人たちに利用してもらったりするミニ美術館「木更津わたくし美術館」を同市貝淵4丁目に開いた。

した。名称は、柏や神戸でも、美術愛好家が自らや仲間のコレクションを「わたくし美術館」として展示していることから「木更津わたくし美術館」に。

館長の中村儀介さん(62)は、昨年まで畳や建具の製造販売会社を営んできた。若い頃から自ら絵を描くほどの美術好きだったが、約30年ほど前からは仕事の合間に美術品の収集にも力を入れ始めた。コツコツと集めたコレクションは、洋画、日本画、中国青銅器など数百点になった。

オープニングは「千葉ゆかりの作家展」。中村さんのコレクションから洋画家安藤信哉や岡野博らの作品、また作家から借りた作品など計33点を展示している。中村さんは「地元の作家や美術部の生徒たちの発表の場にもしていきたい」という。また「美術は、心の栄養。震災で傷ついた人たちの心を、何らかの形で支えていくこともできた」と話している。

昨春、おりの不況もあり、事業を畳むことを決断。「人生も残り少ない。あまり人に見せていなかった美術品を、多くの人に見てもらおう」と、会社の事務所だった建物を改造し、ミニ美術館と

「千葉ゆかりの作家展」は4月10日まで。入館無料。通常の展示は300円。月・火曜日休館。問い合わせは同館(0438・38・3003)。



## シロバナタンポポ咲く

いすみ、外房線沿いの道端

花が白いシロバナタンポポがいすみ市大原で咲き始め、話題を呼んでいる＝写真。タンポポの花といえば黄色いが、シロバナタンポポは白く、中央部分だけが黄色い。JR外房線沿いの日当たりの良い道端に、数輪咲いており、近くの住民(70)は「少し肥料をあげたりして、見守っている」。

県立中央博物館によると、シロバナタンポポは西日本を中心に咲き、関東地方での開花は珍しいという。